http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/

第２０８号
発行日　平成２０年１１月２２日（土）
発行所　八王子の碁を楽しむ活きいき連合
住　所　八王子下久保山町１－１４－３
ＴＥＬ　（０４２）６９１－１１０５
発行人・勝山　恭男
編集者・磯部　信広

碁楽連の目的

碁楽連は、八王子市内に居住する高年者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高年者の福祉の増進に寄与することを目的とする。

碁打ちの気持ち

碁楽連副会長　渋谷　昭男

碁の打ち方を見ていると「その人の本性が見えてくる」と昔から云われているようだ。確かに対局中この人がこんな手を打つのかとビックリすることがある。普段温和で物静かな人が一旦碁石を握るとまるで人が変わったかのような激しいケンカ碁であったりする。テレビ解説で女性棋士の碁はケンカ碁が多いと聞く。その人の日頃の性格が碁の打ち方にもそのまま現れると一般に思われがちだが必ずしもそうではないようだ。普段おとなしい人が激しいケンカ碁を打つのは日頃の我慢の裏返しなのか、いつも淑やかで奥床しい女性のそれもそうなのか。どっちがその人の本性なのか、むずかしいが強いて云えば碁の打ち方のほうなのかなと思ったりもする。

碁を打つ時位遠慮しないで本性で打つ方が良いと思う。但し、その場合でもルール、マナーを守り楽しく打つことが当然である。だいぶ前の事で恐縮だが新宿小田急デパートで囲碁まつり指導碁に抽選で当たり王立誠九段に指導してもらったことがある。当時、王立誠九段は棋聖獲得前新進気鋭の棋士、物静かで温和、決して偉ぶらない、そして親しみやすい人であった。中盤私が一手打ったとき、その一手を見て王九段が考え込んでしまった。三人一緒の指導碁で王九段の着手はそれ程考えることもなく打っていたので五分位考えていたのにはビックリした。その後対局は進みそして終局、結果は勿論私の中押し負け。終局後の講評時に王九段が私の中盤の一手にふれ「この手はどういう意図で打たれましたか」と聞かれ、私はやはり聞かれたかと思い卒直に「その手は私のミスで一路となりに打つつもりで間違えたのです」と白状したところ王九段はにこやかに笑って席を立った。そのときの態度が実にさわやかで感服したことを覚えている。

そして、プロたる者たとえ相手がとるにたらないアマであっても決して馬鹿にしない、その手の意味を真摯に考え読むべきところはキチンと読む、これが一流プロたる所以かと再度感服した。それ以来、私は王立誠九段のファンである。

第５８回市民囲碁大会　９４名参加　盛会裏に終わる

八王子市民文化祭「文化の花咲く八王子」の一環として、菊薫る文化の日（１１月３日）上野町の市民会館において、市内の囲碁強豪から愛好者まで老若男女９４名（一般市民４６名、碁楽連会員４８名）が参加しました。

全員４回戦のスイス方式で入賞者を決めて、盛会裏に終了しました。

市民囲碁大会は碁楽連が主管してから２回目になりました。

成績は、次のとおりです。入賞者には、勝山会長から市長賞と賞品が贈呈されました。

Ｓ組　　１８名（９段～６段）
　　優勝　河津征夫　　準優勝　竹添文彦　　第３位　石田繁行
Ａ組　　３９名（５段～３段）
　　優勝　石川紀文　　準優勝　佐々木胖充　第３位　向井克彦
Ｂ組　　２２名（２段～初段）
　　優勝　藤田勝行　　準優勝　石井良和　　第３位　高橋俊之
Ｄ組　　１５名（１級～６級）
　　優勝　吉川昭一　　準優勝　永井直美　　第３位　渡辺恵介

これぞヨセの極意

由井寿同好会　渡辺　己三男

体を動かし、頭を使うことが、老化現象の抑制になると信じている。近場での山登りとジムでの軽い運動を続けてきた。碁の対局や勉強が頭･脳の活性化に直結すると、これもかたくなに信じている。

「ヨセで負けている」、「全然、ヨセてない」、「小さい小さい」、「また、こんなところで後手をひくぅー」等々、上手（うわて）の方々から辛らつな批評を浴びる。いつもの対局風景である。しかし、たいへんありがたい。これを棋力アップのエネルギーに換えるのだ。いつか（上手を）こらしめてやる。負け犬は今だけの仮の姿、いつかはほえるオオカミになってやる・・と。

根から勉強好き？の私は、「ヨセ」と名のつく本を片っ端にヨミあさった。買うほど余裕はない。図書館や友人から借りてきて。10 冊は越える（数は自慢にならないが)。あげくヨセ情報過多におちいった。情報は多いほうがよいが整理されていないと意味がない。

あれこれ勉強しながら数多くの練習問題にも挑んだ。ときには正解に狂喜することもあるが残念ながら、いや、経験不足ゆえ当然のことに、不正解がつづいた。
それでも間違いを重ねるうちに不正解パターンがだんだんと見えてきた。それは何か。

突っ込みが足りないのだ。正解の着手点はいつも一歩先（前）であった。
どうも、遠慮がちな?　性格が災いしているようだ。

先日、高尾山に登ってのくたびれた帰り道。気もそぞろにトロトロと、京王線の高尾山口駅構内のトイレに辿り着いた。
小用をたしているまさにそのまっ最中。一大発見をした。

これぞ「ヨセの極意」。

と思わず叫んだ。目の前に、

「もう一歩前にお進みください。」

と書かれた札が貼ってありました。

投稿二題

幸　福　を　貰　う

池　田　　悟

過去、現在、未来を通じて人々が最も願う気持ち、それは幸福でありたいとの一語であろう。今日も慌しい１日が終わり、やれやれと思う人が殆どであろう。特に現役の人々は過酷なまでの競争社会にあって痛切に感じていると思う。巷間これに類する出版物等は数え切れない。私は元来物事を余り面倒に考えず単純明快な方と思うが、行き着く所出来るだけ陽転志向、善意に見るよう努力している。それ故ストレスも少ないが時折家内からはお父さんはその分他人にストレスを与えているかもと言われる。そんな時には、そうなのかなーと反省したりもする。若い頃、「精神文明と物質文明」と題する単行本を読んだ時日本の将来は物質文明に傾倒するであろうとの内容であり、そのような社会になったようだ。でも人間が生存生活する最終の願いは幸福でありたいに到着する。私は常々健康で幸福になる秘訣は、感動する、感激する、感謝する、この三点を蟠りのない気持で自然に受け入れられることが自ずと幸福に繋がると思っている。感動も感激も受け入れ方は、人それぞれである。一億円で得たことも一千円で得たことも全く同じと思う。要は、得た回数が大切である。感動の場面は沢山ある。

- 自然が創出した景観美に接した時
- 人間が能力の極限で成し得たこと
- 神社仏閣の荘厳さに触れた時
- 野生動物の親子愛を見た時等々

そのアングルは多種多様である。これからも与えられた人生を感動、感激、感涙しながら幸福を貰いたいと思っている。

この度、図らずも昇段することが出来ました。研修部会では一番古い三段でした。九年間打っていただいた総ての方々に感謝致します。有難うございました。（池田悟さんは、北野大会で優勝されました。）

碁鬼と仏とそして碁聖

刀根　正樹

菊の香る秋の夜、駅前の居酒屋で囲碁談義の花も咲く。Ｔ会長は元船乗り、陽気な色好みである。読書家で碁についても博学だが四段止まり。Ｈ老人は８０歳を超え非情な鬼の殺し屋にして六段。そして、私は平凡なサラリーマン人生で、碁も平凡万年初段である。湯豆腐を肴に酒がまわる。今日の碁楽連例会で、全敗した私に火山のマグマのような怒りがこみ上げた。『私は、鬼になります』とわめいた。周囲の客が驚く。『剱鬼宮本武蔵と化し、血の赤いバラを口にくわえ北野碁楽連を斬りまくる。返り血を浴び、血

笑する』『君には無理だし、棋風でもない。H老人の仕事だよ』と会長が、ニヤニヤ笑いながらたしなめた。『鬼を見たのです。恐ろしい鬼を、この目で見ました』

ＮＨＫの囲碁放送で趙治勲が、こちらを向き赤いハンカチを口にくわえていた。それが舌のように長くたれていた。目はつり上がり、ボサボサの頭をかきむしる。画面から目をそむけるような鬼気が放射した。対戦相手は武宮正樹。三連星の大模様を誇っていたが、趙の白石は大蛇のようにのたうち、黒石を粉砕した。『趙は、碁鬼というより碁聖というべきだろう。大三冠を二度取っている。当代無双の強さだった。碁鬼にはピンからキリまであるが、碁聖となると、世人が認める圧倒的な強さが必要だ。その上人格者、指導者でもある。』

安井算哲は、陰陽道をきわめ、寛文十年お城碁で碁聖道策に挑戦した。算哲は第一手を天元に打ち鬼神を呼ぶ。対する道策は、目外しを連続三度打ち鬼を払う。中盤、白石を算哲が追ったが突如天元の一着が輝きを失い鬼影が消えた。白石は中原に脱出、白鳥のように飛び去った。鬼の力も道策には通じなかった。算哲は、生涯に一度も六歳年下の道策に勝てなかったという。

『会長も、催眠術的なまやかしをやりますね』『言葉で暗示をかける。心理学者によれば心理的に不安定になると、思考力が乱れポカをするという』『ワシの碁は、断じてまやかしではない』とH老人が憤然と反論した。目がつり上がり鬼の顔だ。『太平洋戦争では、北支那や沖縄で戦った。ワシの碁は、当時の闘争心、苦しみや悲しみを引きずっている。碁盤に向かえば勇猛で無慈悲な鬼になる。戦場に行けば、皆すさまじい鬼の顔になる。戦死すれば、仏相になる』『碁盤の中に、鬼が住むのですか。仏は現れないのか』『日蓮上人は、仏の棋譜を残した。また、日海は寂光寺本因坊で仏道を修行し、信長や家康に認められ、第一世本因坊となった。仏道にかなった品格のある棋風が、認められた。

近世、碁は仏の心により築かれたといえる。戦国時代に、仏教が発展した。人は戦いを好む。しかし戦いながら、仏に救いを求める。碁を打ちながら、我々は戦い、そして仏に出会っている』Ｔ会長は、色坊主の顔になり、杯を重ねた。『現代の偉大な指導者にして、碁聖。それは木谷実だ。内弟子を養成し、趙治勲をはじめ多くのトッププロを育てた。もう一人、瀬越憲作がいる。囲碁の国際的な普及、文化面での功績を残した。そしてワシの先生でもある』とH老人は目をぬぐった。私は声をのんだ。『ワシは、憲作の本で開眼した。彼の手談で感銘を受けた。

呉清源や橋本宇太郎や、韓国のチョフンヨンと同門だと信じる。晩年憲作は自殺した。遺書に、体の調子がとれない、とあった。いずれ我々の行く道であろう』『いやいや、さにあらず』と会長は酒をすすめた。『憲作先生も、大戦で死んだ戦士も、ひめゆり隊の少女も皆天国の花園で幸せに楽しく暮らしておるさ』　会長はかって人生に挫折した。多摩御陵に参拝した折、天空に声を聞いたという。『戦争で死んだ若者に代わり、長く生き

るがよい』古希となり、会長はようやく長い老後を天に生かされていることを実感し、天の存在を理解し、感謝した。『清酒の異称を、聖（ひじり）という。これを飲み我々は、碁聖となれる』徳利を傾けながら、会長もH老人も、そして私も大いに笑った。花の香がただよっていた。　　**寒椿　碁鬼も 碁聖も　　同じ 枝**

第 6 回碁楽連理事会記録

日　時　　10 月 25 日　東浅川保健福祉センター

出席者　　勝山、磯部、石田、渋谷、杉渕、斉藤

審議事項

１、八王子市民文化祭囲碁大会について

- 「第 58 回市民囲碁大会実施要項」(別紙)により、大会次第、役員編成、組み合わせ、順位決定などについて審議し、組み合わせについて一部修正を行い、本実施要項によって実施することを確認した。
- 「市民囲碁大会競技ルール等」(別紙)を確認した。

２、20 周年記念事業の準備について

- 別紙「来賓名簿」により来賓の案内について、確認した。
- 「第 2 回記念事業実行委員会･記録」（別紙）を検討し、①参加者のネームバッジの取り扱い②同好会会長宛の御願い状について、一部修正を行った。

３、平成２１年度諸行事予定、会場特認申請及び後援依頼について

- 行事予定(案)、地区同好会への依頼について、別紙「地区同好会会長宛文書」のとおり決定した。

訃報のお知らせ

由井同好会会長　養田高尾氏（79 歳）は、病気のため 11 月 10 日逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。同好会の運営は、会長代理小関真満さんが代行されます。

編集後記

11 月 17 日は、二の酉の市が横山町の市守・大鳥神社境内で開かれていた。今年は 5 日に一の酉があり、29 日には三の酉がある。三の酉がある年は、火事が多いといわれている。酉の市の声を聞くと、年の瀬が近づいてきていることを実感させられる。

今年は、景気も政局も低迷し不安定である。これから一段と寒くなる折、健康に留意し元気で囲碁を楽しみ良い年末を迎えたいものである。11 月 30 日は、碁楽連創立 20 周年記念囲碁大会が行われます。普段の実力を発揮しましょう。　磯　部